

平成26年度 柏崎市刈羽郡生活科教育研究部 活動報告

部長 小林 克之

1 研究主題 「確かな学びを創る生活科授業の在り方を求めて」

2 研究の概要

- (1) 実技研修を通して、生活科における体験的な学習活動の充実と会員の実践力の向上を図る。
- (2) 日々の実践をもとにした情報交換や会員相互の交流により、資質・指導力向上を目指す。



3 研修の実際

(1) 研修1【サツマイモと夏野菜を使った調理実習】

○期 日：平成26年7月2日（水）

○会 場：刈羽村生涯学習センター「ラピカ」

～参加者の声～

・実際に自分で調理したものを食べてみて、いつもよりカレーがおいしく感じた。子どもたちにもこういった体験をさせてあげたいと思う。今回の研修を学校でのカレーパーティーに生かしていきたい。

(2) 研修2 生活科講演会 講師：上越市立宝田小学校 教諭 上原 進 様

○期 日：平成26年8月7日（木） ○会 場：刈羽小学校「プレイルーム」

～参加者の声～

・生活科の活動では、環境や場の設定が大切なんだということが分かった。また、生活科と「書くこと」に関する指導を関連させながら活動すると、感想が書けるということが分かった。今まではただ感想文を書いて終わりになっていたのですが、どのように作文指導を進めればよいか分かった。

(3) 研修3 実技研修会「あきの遊び」講習会

○期 日：平成26年11月7日（金） ○会 場：夢の森公園・柏崎市立教育センター

○講 師：柏崎市立教育センター科学所員 近藤亜矢子 様

- ・最初に「夢の森公園」で指定された様々なものを探しながらフィールドビンゴを行った。その後センターに戻り、採ってきた葉っぱなどを使ってジャンケンをしたり、葉っぱの擦り出しを作成したりした。

～参加者の声～

・実際に物を手に取ったり見たりしながらできたので、とてもよかった。この研修の直後に秋探しに行ったので、すぐに授業に生かすことができた。
・実際に自分たちでフィールドワークに出かけて秋に触れたことで、身近に秋がたくさんあることを実感できた。ドングリやくりなど、ただ集めるだけでなく、おもちゃづくりとしても活用できることを知り、大変参考になった。

4 反省と次年度への課題

- 体験型の研修と講演型の研修とのバランスがとてもよかった。研修で学んだことを普通の授業に生かすよう努めていくことが大切である。
- 柏崎の共有ネットワークを使って互いの実践を見合う場を設定した。まだ数が少ないので、更なる声かけが必要である。